

玉ネギのカルテック施肥例

(10アール当り)

時期	方法	資材
本畑の 地力 作り	なるべく早い時期に	ラクトバチルス 600g …保水性・保肥性のよい、肥沃な土を作ります 堆厩肥 1トン以上 (なるべく多く) ※もし堆厩肥が無く、米ヌカを使う場合は 200kg以上とし、硫酸カリ40kgも加え、定植までに40日以上おく。 硫安 100～120kg (または尿素50～60kg) ※もし通常の複合肥料なら、チッソ成分20～24kg程度 ※ポリ・マルチ栽培では追肥が出来ませんから、土作りによく配慮し、チッソ投入量も少なくしないでください。
本畑の 整地時	整地・ウネ作り時に全面散布、またはウネ上に散布	畑のカルシウム 60kg ※土壌pHを調節。 (もし特に速く生長させたい場合は 硫安20kgを追加します)
(9月 下旬～) 育苗中	散水時に使用	濃縮酵素液 1000～500倍 …根を強くし、生長を促進します。間引き後に。 カルテックCa液状 1000～500倍 …葉を厚く、充実させ、軟弱徒長を防ぎます 7～14日間隔で交互に、葉の上からタツプリ散布。定植3日前。
(11月 中旬) 定植時	定植前後の散水の時に	濃縮酵素液 500倍液 … 初期の根張り促進、病害軽減
(3月～ 4月迄) 前半～ 中盤 [外葉が発育し、鱗片葉が形成されて、球が肥大を始める前迄] ここまで は徒長させない!	葉面散布 (または灌水) ※通常の栽培では、12～1月と、2月後半に追肥をします。これは衰弱を防ぎ、葉数を増やすためですが、カルテック栽培を継続すれば、ほぼ不要になります。地力が不十分な心配のある畑だけ、 硫安2.0kg ずつを施して下さい。	濃縮酵素液 500倍液 タツプリ土まで散布 …根の力・生長促進 ※前半は特に土を乾燥させず、持続的に根の力をつけることが大事です。根は冬も伸び続け、葉先が枯れずにピンと立ちます。 地力作りが充分であれば、前半から中盤の生育促進はチッソ肥料ではなく、根の力を強化するだけでOKです。 ※半月ごとの定期散布をお勧めします。農薬には混用を推奨。 ★特に生長が弱い場合や、根腐れの場合は 多めに灌水施用。 原液3～10リットルを灌水(300倍前後) アミノ酸液 500倍 で葉面散布(チッソ補給) ※もし葉色が薄く、肥切れの時に。特に越冬前の栄養充実に。 ただし中盤までは 決してチッソ過多にしないでください。 チッソが効きすぎると、トウ立ちや球の肥大不足になります。 カルテックCa液状 500倍 …生育を引締め、葉の病害対策。(半月ごと) ※チッソ過多、ベト、疫病、腐敗病が心配な時は、カルシウムを。
(3月～ 5月迄) 後半 [球肥大期]	(収穫45日前頃) 追肥 ※結球開始後すぐに ※同時施用を推奨	硫安 20kg (～40kg) … 球の肥大促進、トウ立ち防止 ※状態により施用量を加減します。もし肥料不足の状態なら、やや早めに。 畑のカルシウム 20kg … 養分転流、球の増糖、品質・貯蔵性の向上 ※もし土壌pHが酸性で、球肥大が心配な時は 特に。
(4月～6 月中旬迄) 仕上げ [成熟期]	(収穫20日～15日前) 葉面散布	カルテックCa液状 500倍 … 旨味を増し、品質・日持ちを向上させます。 ※葉が枯れ、球の肥大が終った後は チッソ施用や、根を動かす事は しない。

(上記は秋蒔き栽培の日程です。作型・品種によって時期が違いますので、後半の施肥は収穫予定日に合わせて決めてください。)